

お正月を手作りのしめ縄で

寄稿◎こうかまちかど特派員 松本 美恵子



▲しめ縄を作る参加者

12月6日に、「たけのこ児童館」のしめ縄づくりに参加しました。教えてくださるのは、老人クラブの方たち。参加者は子連れの母親、壮年の男性など30名ほどで、気さくに声をかけてくれました。

まず、木台の上に両手を輪にしたほどの、もち米のわらを置き、木槌でたたいて根元を柔らかくします。木槌は重く打つところのバランスがとれずに困っていたら男性が手助けしてくれました。

この日作った2種類のうち、まつすぐ横にして飾るしめ縄を紹介します。わらを15本ずつ3束作り、よりをかけながら編んでいきます。力の入れ具合が均一でないと美しく仕上が

がりません。わらの根元が右手側にくるよう横にし、これを3等分したところに各々15本のわらでくるむようにまきます。固定した針金で根元を留め、20センチの長さに切りそろえ、土台になっているしめ縄の根元も切りそろえて完成。幣、裏白、橙など加えると立派な正月飾りになるでしょう。素朴な清々しさがあります。家族で楽しみながら正月準備をするのはほほえましいかぎりです。私に教えてくださった方は、昔ソウリを編んだことがあるとのこと。稲わらでフラジヤ縄、ムシロなど作って農作業をした人々の知恵と忍耐に驚きます。

去年今年貫く棒の如きもの 高浜虚子

手裏剣投げや たこ焼き作りを体験

～甲賀市・利川市中学生交流～

姉 妹都市の韓国・利川市から中学生9名が甲賀市を訪れ、12月6日から10日まで、ホームステイしながら日本の文化に触れました。

期間中の2日間、利川の中学生は、ホストファミリーの中学生と通学し、一緒に授業を受けました。休み時間には、英語で交流したり、給食を食べたりして両市の中学生が交流を深めました。また、自主活動センターきずなでは、た



▲休み時間に談笑する両市の生徒（甲賀中学校）

車したりと、甲賀市での5日間を満喫しました。

こ焼き作りを体験。市国際交流協会職員の指導で、生徒らは手際よくたこ焼きを丸めて焼き上げました。キムチやチーズ入りが人気で、生徒らは「おいしい」とほおばっていました。

この他、忍術屋敷で忍者衣装を着て、手裏剣投げに挑戦したり、信楽高原鐵道のサンタ列車に乗



▲たこ焼き作り挑戦

医療介護用車いすを配置

水口医療センター・信楽中央病院

このほど水口医療センターおよび信楽中央病院に医療介護用車いす計3台が配置されました。

この車いすは、利用される方に合わせて高さが調整できるなど、利用される方に優しい設計となっています。両施設では、患者さんのリハビリや移動のために使うこととしています。

この車いすは、水口ロータリークラブから寄贈いただいたもので、先と同クラブ例会で贈呈式が行われ、中嶋市長に目録が贈呈されました。市長は「市民の皆さんのために有効に活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



▶水口ロータリークラブから贈られた車いす

紙粘土で簡単丑人形作り

～みなくち子どもの森～

み なくち子どもの森で12月23日、新年のえとである丑の人形作りが行われました。

この催しは、子どもの森で12月から1月にかけて行われている冬休みシヨートコースのひとつで、この日の「カラフル・ウシ人形」作りには、16名の親子が参加しました。

子どもの森の指導者から、離れた目、大きな鼻、角の位置など丑らしさを出すためのコツを聞いたあと、参加者の皆さんは、紙粘土を使って丑作りに挑戦しました。丑の模様は好きな色のマジックを混ぜ合わせて着色、耳やしっぽには落ち葉や種など自然の素材を使い、どれも個性的な作品に仕上がっていました。



▲丑の人形を作る親子

太陽光発電システムを設置

～里山かむら交流館～

昨 年12月、里山かむら交流館に太陽光発電システムが設置されました。

甲賀町神区が「環境にやさしいまちを」と独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成を受けて整備したもので、屋根にパネル200枚が取り付けられています。年間に、同館の昨年の電力消費量の1.7倍に相当する約4万4千キロワットを発電し、余った分は電力会社に売電されます。

神区では、完成を記念して、12月14日に環境シンポジウムを開催。区民を中心に約140名が参加し、新エネルギーや省エネルギーについての理解を深めました。



▲屋根にパネルが取り付けられた里山かむら交流館